

思いはどこから

こうしたい、ああしたい、という思いは、どこから湧いてくるのでしょうか。
一つは、今やっていることをもっと楽しくしたいと考えたとき、もう一つは、思いがけないハプニングが起きたとき。対照的なことに思えるこの二つが、実は子どもの強い思いを引き出してくれるきっかけになるのかもしれません。

思いが強ければ、なかなか思い通りの結果が得られないときにも、なんとか知恵やアイデアを出して考えようとしています。一人では無理でも、だれかに聞いてみようとしています。そして、だれかと一緒に考えたり、やってみたりして、思いが叶う経験をするすることで、人っていいなと思うのかもしれません。



こうしてみる～?



すごいすごい！みんな、やったね！

大事件！ボールが日よけネットの上に引っかかった！どうしよう？
虫網で取ろう！ビールケースも持ってこよう！
ビールケースに乗ったら届くんじゃない？もう一つ重ねよう！あ～もうムリ！ぜんぜん取れないや。先生、手伝って！そんで、ボール取れたら、先生も一緒にサッカーやろうよ。
もう少し！もう少し！頑張れ！みんなが応援してくれてる！
あ、あ、あ！やった～！取れたよ、取れたよ！わーい！

ダンゴムシたくさん集まったけど、屋根がないんだよね。ダンゴムシのお家作りたいんだ。

三角屋根を作りたいから木を2本持ってきたよ。でもうまくできないな。すると、先生が「こうしてみる～？」って言いながら、木を立てかけたんだ。友達も反対側に一本立てかけたよ。ふむふむ、三角屋根ができそう。私もやってみよう！

わあ！だんだん素敵なお家になってきたよ！大きな葉っぱで屋根もつくったよ。長い長いすべり台もつけたら楽しそう！

ダンゴムシのお友達も入れて・・・ごはんも作ろう！

その子が休日にキャンプに行ったことを聞いていた教師は、「この子が作りたい『三角屋根』はテントのイメージかもしれない」と考えたそうです。そこで、木を一本、斜めになるように立てかけてみたことで、子どもは自分のつくりたいお家のイメージがわいたと言います。

「だから、バーベキューにつながったんです」と教師は面白がります。

まるで、冒険に出かけた船乗りたちが、嵐を乗り越えて喜び合っているようだった。自分もその一員という感じ。いつものサッカー遊びでは、勝った・負けたということが子どもたちの関心の中心のようだったけど、このときは『引っかかったボールを取ろう！』という共通の目的に向かって、ものすごい熱量で相手チームも自分のチームも一致団結していたと教師は振り返ります。